

# 日本現代批評史研究会

## 概要

本研究会では、日本現代批評史における重要文献の講読会を通して、日本現代批評の歴史意識や現代の批評状況を把握することにより、批評的な問題意識を醸成する。また、学術／批評の横断可能性を意識づけ、多角的な視点を身につけることで、学術／批評にまたがる「知」のあり方を模索する。

## 内容

日本現代批評に関心をもつ院生とともに文献講読を行う。講読する文献は、浅田彰『構造と力——記号論を超えて』（1983）、福尾匠『非美学——ジル・ドゥルーズの言葉と物』（2024）等とする。秋 semester には、日本現代批評に関する講師を招聘し、公開研究会の実施を予定している。

## 本プロジェクトの目的

### 横断的な「知」の獲得

さまざまな学問分野の「知」を包含する日本現代批評史を追うことで、文学・哲学・ゲーム研究・メディア論等々の諸分野に関わる「知」を獲得する。

### 批評的な問題意識の形成

批評の歴史意識のなかに存する、学術に還元することのできる「知」を探ることを通して、アクチュアルな問題意識を形成する。

### テキスト読解能力の向上

複数のコンテキストが交差する日本現代批評の文献を講読することにより、複数的な思考を駆動させることのできるテキスト読解の能力を向上する。

以上の3点を通して、学術／批評の「知」を体系的に血肉化する。

**招聘予定の講師**：大澤 聡 氏（近畿大学 文芸学部文学科 准教授）

## 本研究会の構成メンバー

立川 宗一郎（表象2回生）：文学研究（ブランショ）  
徳永 怜（生命2回生）：思想史研究（フーコー）  
間宮 琴子（表象2回生）：乙女ゲーム研究  
TAN Lacheng（表象5回生）：ゲーム研究

**連絡先**：lt1201xk@ed.ritsumeikan.ac.jp（代表：立川宗一郎）

